

システム農学会優秀発表賞(北村賞)ダブル受賞！

11月6・7日に開催されたシステム農学会2010年度秋季一般研究発表会において、我が畜産資源から加藤陽平君(M2)、永世院生の長命洋佑氏(現日本学術振興会特別研究員)が、優秀発表賞を受賞しました♪おめでとうございませう！11名の登録者数だったということですが、その中で、研究内容、プレゼンテーション能力とも



に高く評価されたということで、研究室としても大変名誉なことですね。



以前は、優秀発表賞に余り興味を持っておられなかった広岡先生も、最近では優秀発表賞への応募を推奨されています。

二人の先輩方の栄誉を継続すべく、研究の充実と、プレゼンテーション能力向上に努めていきましょう！
(ようこ)



北部構内の銀杏並木

目次:

広岡先生の随筆 ④逆境の時代の過ごし方	2
放牧班熊本出張	3
学生実験 ～乳脂肪測定なら回すだけ～	3
お知らせ	4

NF前夜祭

もうヒンヤリを通り越して体も心も震えだした、11月19日。毎年恒例の京都大学11月祭の前夜祭が行なわれました。われらはくびかいも栄養の研究室を中心に、焼肉を販売しました。違う研究室の先生曰く、昔は手作りローストビーフなるものを作っていたようです。さすが畜産系。やるのが違いますねえ。

それに比べ今は・・・一応炭で焼いてはいますが、もちろんそんな火力では販売が追いつかず、ほとんど着火剤で焼いております。というか着火剤もなくなったので最後はダンボールで焼いておりました。

まあそれも学祭のご愛嬌ということで。みんなおいしいおいしいってくれたので、服が焼肉くさくなって



も、すごく楽しい一日でした。毎年思うんですけど、周りが売れ残ってるのにはくびかいの店はすぐ売り切れます

よね。焼いてる人が素晴らしいのか、かわいい人が多いのか、それとも売込みがうまいのか。まあ今後もこの伝統は続いていくといいですね。

その後はまあいつもどおり麻雀をして、お酒を飲んで、つまみを食べて、せつかく痩せてもこんなじゃいみねえよってな具合に不健康な朝を迎えました。

やっぱりたまにしかできない無茶を楽しんだもん勝ちですww。

私にとっては前夜祭も来年が最後なので、最後まで楽しんでやろうと思います。

(Jr.)

木々の葉が艶やかに移ろい、行楽シーズンの訪れを告げています。例年この時期(11月)には、700万人近くの人々が、京都を訪れるそうです。京都で生活する私達にとっては、頭の痛い季節でもありますね。主要な駅や公共交通機関は占拠され、予想を遥かに上回る交通渋滞と歩道の封鎖…観光客の方々の多くも、この混雑にうんざりすることでしょうが、この環境で日常生活を送ろうとすると色々な障害に悩まされます。こんなときこそ心と時間の余裕を持って行動しましょう。



はくび会NF前夜祭打ち上げ

好評連載 広岡先生の随筆

④ 逆境の時代の過ごし方



先日、就職決定のお祝いに、修士課程2回生の諸君と飲みに行ったところ、就職で苦労したある学生から、「不運の時ってどうしたらよいのですか」と質問されたので、「じっと耐えることだ」と答えたところ、がっかりした顔をされてしまった。たぶん、もっと気の利いた答えを期待していたであろう。



確かにこのテーマについては、このシリーズで述べてこなかった。つらい思い出は私自身も知らず知らずに避けていたのかもしれない。しかし、今回はあえてこのテーマに触れることにする。

人生で、苦しかった時代はいくつかあるが、その中でも博士課程の後半から就職するまでの4年間は本当につらかった。3年間で学位を取るべく、2本の論文をすでに日本畜産学会に掲載し、それ以外に2本の論文をほぼ書き上げて、いよいよ博士論文執筆の許可が出るであろうと期待していた博士過程3回生の始めに、山田先生から急に博士論文は英語でなければならないと言われた。さらにその時期になって、モデルの信頼性の評価法を新しく開発しなければならないと漠然とした課題を出され、途方にくれてしまった。その結果、1年半も学位の取得が遅れ、しかもその後の就職もなかなか決まらなかった。その間、山田先生は退官されて、マレーシアに行かれ、残された私は、糸の切れた凧の状態になってしまった。当然のごとく、この畜産資源の研究室も、山田先生の退官後、すぐに新しく教授が着任され、助手も決まった。大学院に残っていた他の研究室の同級生は、次々と大学に職を得て、残されたのは私一人であった。

家庭も、息子の出産は大難産で、妻と生まれたばかりの息子は即入院、息子に障害の残る確率は50%と医師に宣言されてしまった。一人でいるとポロポロと涙がこぼれた。このときの絶望感は今もはっきりと脳裏に焼きついている。

この時期のこと、特に研究室における日常のことは、ほとんど覚えていない。当時、熱帯農学専攻の事務で働いていた妻からは、この頃の思い出話を言われるが、不思議なことに、研究室での出来事、日常のことはほとんど忘れている。人間は本当につらいことは忘れるものだと改めて感じる。ただ、とにかく、鬼神のごとく、研究に没頭した。いやなこと、つらいことを忘れるために必死で研究した。思い返せば、現実から逃避するために研究に没頭していたのかもしれない。今から考えても、この時期に書いた論文は、このようなことをよく思いついたなと思うものが多い。改めて、手元の業績リストで数えたら、この時期までに書いた論文は、原著論文が21本、その他が9本になっていた。

1990年10月、31歳になる直前に龍谷大学に就職が決まった。また、翌年の3月には、畜産学会奨励賞を受賞できた。妻も1ヶ月の入院の後に退院し、その後元気になり、息子も障害が残ることなく、すくすくと育った。

不幸は、一度来てしまったら、次々と襲ってくる。逃げようとする追いかけてくる。したがって、逆境の時には、決して自暴自棄にならず、自分の本来すべきことをただひたすらに続けることである。そしてじっと耐えて、チャンスの到来を待つことである。当然、このようなときには、家族の存在は大きい。妻も一言も文句をいわず、仕事と家事をこなしてくれた。一切、プレッシャーをかけてくることもなかった。この点については、いまでも感謝している。元気に育つ息子の姿は、心の支えであった。

この時期に学んだ教訓も多かった。落ちてくるチャンスは必ず拾うことなどは、このときに得た貴重な教訓である。また、もう2度と逆境のどん底に落ちることはないように、2重、3重に安全弁を設けるようになった。これはその時期に得た知恵である。

論文掲載ニュース!!

昨年度の畜産資源修士修了生、木村知史先輩の研究論文が日本畜産学会報第81巻 (p.p.457-466) に掲載されました。「核酸関連物質の添加が粗飼料および濃厚飼料基質条件下のin vitro第一胃発行に及ぼす影響」木村知史・大石風人・広岡博之・横井大輔・熊谷元

放牧班熊本出張

紅葉が見頃を迎えた11月18日～22日、大石先生とJCさんの研究のお手伝いで熊本に行ってきました。放牧試験地は東海大学農学部 in 阿蘇。校舎の裏側は見渡す限り一面試験地でした。試験としては、褐毛和種2頭にGPS、バイトカウンター、アイスタグを装着し、東海大の学生さんたちと24時間放牧行動観察(早朝の試験地は極寒でした!)、呼気測定のお手伝い(JCさんが牛を全力で追いかけて!) などなど、全て勉強になりました。自分のテーマはパソコンと向き合うばかりなので、非常

に刺激を受けました。

また今回は、他大学の農学部生の雰囲気を知る良い機会となりました。東海大では3回生で研究室に配属し、4回生では既に最高学年として研究室を引っ張っていて、全員頼もしかったです。先輩に甘えがちな4回生からの脱却を



誓いました。

(まえの)

学生実験 ～乳脂肪測定なら回すだけ～

今回、畜資が担当する学生実験は11月9日と10日、そして17日と18日という2週連続に渡り行われました。TAの人たちはもう慣れたもので、前日には全ての器具が用意され、当日も快調に終わることができました。乳脂肪抽出では機械の説明および原理を、4回生の安在くん、西田くんが説明できるようにまできていました。来年もきっと主力メンバーになってくれることでしょう。みなさん、今年も学生実験のお手伝い、お疲れ様でした。



さて、またネパールのネタで恐縮なのですが、私もネパールで乳脂肪分や無脂固形分の測定をやっていました。もちろん我が研究室にあるような便利な機械、器具はありません。なので、古くから利用されてきたゲルベル法という方法を用いて測定を行いました。



原理として、乳脂肪は乳成分の中でも最も軽く、水と混じり合わず、かつ硫酸に侵されにくい性質を持っています。乳に濃硫酸を加えて脂肪球を包む皮膜を破壊し、濃硫酸中に浮遊した乳脂肪を遠心分離して集め、その体積を読み

取って脂肪量を求めるというとてもシンプルな方法です。

しかしここでまた驚かされることが起きました。お世話になっているネパールの大学には遠心分離器がなかったのです。いや、厳密に言うとおったのです、手動式のやつがね…。乳サンプルをUFOみたいな円盤形の入れ物に入れ、蓋をし、横に付いているハンドルを回す。回すと歯車がいろいろと噛み合っただけで円盤が回っていくという原理。やることは簡単。回す。回す。ただひたすら回す。汗が出ようが回し続けます。周りのネパール人の学生に笑われようが回し続けます。10分後、遠心を止めるときも、もちろん手動。摩擦の熱さを我慢して、手のひらで円盤を押して止めるだけ。すると、まあなんとこのように、ピペットのメモリを読めば乳脂肪測定ができるではありませんか。



たまには、こういう測定方法も日本の学生には好評なのではないでしょうか、熊谷先生？

さかい

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



畜産資源学研究室

GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、

12月 2日(木)	安在・前野(研究者会議)	済	10:30-12:00	E074
12月 7日(火)	安在・西田・前野(文献紹介)		14:45-16:15	E103
12月 9日(木)	前野(研究者会議)		10:30-12:00	E074
12月 14日(火)	小栗・石田(中間報告)		14:45-16:15	E103
12月 21日(火)	木村・中川(靖)(中間報告)		14:45-16:15	E103

の予定です。急な変更などがある場合には、事前にお知らせします。

ゼミ係り

今月のイベント

今年もまもなく終わりを迎えようとしております。よって、恒例の忘年会を開きたいと思っております。日程は、12月7日(火)です。開催時間・場所など詳細が決まりましたら、追ってお知らせします。

イベント係り

研究室の動向

児嶋君(D1)がJIRCAS(国際農林水産業研究センター)の助成を受けて、11月20~1月20日までシリアのICARDA(国際乾燥地農業研究センター)にて研修中です。12月18~27日まで熊谷先生がネパールへ出張予定です。日本畜産学会第113回大会(東京農業大学厚木キャンパス)の講演要旨登録は12月7日~1月6日、大会参加費・懇親会費の前納締め切りは、2011年2月10日です。

2010年 12月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
11/28	29	30	1 中川(靖)・西田 体重測定(成羊)	2	3	4
5	6	7	8 塚原・竹内 体重測定(若羊)	9	10	11
12	13	14	15 酒井・荒木 体重測定(成羊)	16	17	18
19	20	21	22 加藤・中川(智)・柳 体重測定(若羊)	23 天皇誕生日	24	25
26	27	28	29 体重測定(成羊)	30 中川(靖)	31 前野	1/1 元旦

編集後記 国内産の山羊乳と山羊のチーズを使って、チーズケーキ2種とプリンを作ってみました。研究室では、「山羊乳の持つ独特の癖が無いほうが食べやすい」、「癖があったほうが山羊乳を使っていることがわかっていい」と、評価が二つに分かれました。生産量の限られた山羊を牛乳の代替にしているのもったいない気もするので、山羊乳独自の製品が作られるのが良策かもしれません。そう考えるとメキシコのカヘータは、優秀な製品ですね。・・・どこからともなくクリスマスソングが…あ〜もう師走、心ばかりが急く今日この頃です。

